

窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

揺れる想い

次長 鈴木 芳夫

新着情報と言え、何と云っても『全国学力・学習状況調査の結果』なんだろうが、教育のプロフェッショナルでない私には、もっともらしいコメントはできない。ただ、他に例を見ない逆境に置かれている状況からすれば、福島県の未来を切り拓く児童生徒たちのがんばりに盛大な拍手を送りたいものだ。せっかく寄稿の機会を与えていただいたことに感謝しつつ、この場を借りて私の想いを綴らせていただく。

『今なお平時に非ず』多くの人々が容易には日常生活に戻れない我が県の現状を鑑みると、仮想日常での「家庭教育」「学校教育」の難しさがひしひしと伝わってくるが、本当に大切なものは目に見えないことが多い。

人には得手不得手があり、成長の度合いも様々である。何に興味を示し、どんな時に感性を發揮するのか、自分が進むべき道筋は何なのか、意識するのは決して一律ではない。

様々な指標が提示されるが、日々切磋琢磨する教師の皆さんの姿が目に見え、児童生徒にはそれぞれの『個』があるものである。こんな時だからこそ、教師の腕の見せ所であり教師のプライドを再認識することになると真に思う。

先だって、日テレ系の恒例番組「24時間テレビ」が放映され、その一コマで南相馬市立小高中学校の生徒たちが歌う『群青』（作詞：生徒たち、作曲・構成：小田美樹教諭）のエピソードが披露された。震災、原発事故後、歌うことを遠ざけていた子供たちが、離ればなれになった大切な仲間を想う気持ちを綴った楽曲で、とても心打たれるものがあった。やはり音楽の力は凄い。哀しみが癒やされ、元気をもらい、心からの笑顔になる。

私は今、三代目 J Soul Brothers にはまっている。年甲斐もなくと言われそうだが、彼らが魅せるキラキラのダンスパフォーマンスと技巧派のヴォーカ

ルに圧倒されているからだ。

今最も懸念しているのは、児童生徒たちの体力面での落ち込みが切実な問題になっていることだ。『健全なる精神は健全なる身体に宿る』ことは決して馬鹿げた話ではなく、体を動かすこと、体づくりに意を配ることは、現代生活における大きなテーマにも挙げられる。

認知症の発症率を取り沙汰される高齢者層にとっても憂慮すべき材料の一つだし、ましてや成長期にある児童生徒にとっては、ごく当たり前の活動が制約され、不安げな話題が溢れる中でも、自然に体を動かせる環境づくり、歓声がこだまする運動メニューなどなど、誰もが真剣に取り組まなければならないだろう。錦織圭選手の全米オープンテニスでの歴史的快挙や全国高等学校軟式野球大会における中京高校 V S 崇徳高校の延長50回に及ぶ激闘を知って、どんどん弾みをつけてほしい。

折しも『運動身体づくりプログラム講座』（教育センター主催）が県内各地域で好評を博していると聞くが、なるほどとうなずける状況であり置き去りにしてはならないことだ。

センターでは昨年度から『未来プロジェクトWG』なるものを立ち上げ、近未来の教育センター像を描く試みをしている。まずは、イメージ映像の制作とPR名刺の作製から手を付けたが、様々な課題解決に向けた取組に発展しており、最終的には、しかるべき部署への提言も視野に入れながら、組織の活性化に寄与する動きになることを願っている。

未来を切り拓く児童生徒をはぐくむ影響力を与える教師の資質・指導力を培う研究・研修機関たる教育センターの存在意義を問い、あるべき将来像を創造する。こんな図式になれば最高だ。

最後に偉そうなことを言ってみる。いつの時代も教師にとって大切なのは、『児童生徒に寄り添ってエールを送り続ける』ことであろう。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

編集発行 : 福島県教育センター 〒960-0101
TEL 024-553-3141 (代表)
URL <http://www.center.fks.ed.jp/>

福島市瀬上町字五月田16番地
FAX 024-554-1588
E-mail center-kikaku@center.fks.ed.jp

授業力の向上に係る校内研修の在り方

— 県内公立学校の校内研修の実態調査（アンケート）の結果から —

「よい授業をしたい」、これは教員なら誰もが持つ思いでしょう。そのためには「授業力を向上させなければならない」と考えている教員も多いはずですが、しかし、この「授業力向上」は一朝一夕に解決できる課題ではありません。今でも多くの学校、教員が日々研鑽に努めているところです。

このような状況の中、調査研究チームでは、これまでに「言語活動の充実」「活用力」をキーワードに思考力・判断力・表現力を育てる授業の在り方を明らかにしてきました。その成果を『授業改善ハンドブック 新授業の窓「授業をつくる16の視点」』（H25.3月発行）にまとめ、全県に提案してきました。また、平成25年度は「教師のコーディネート」の在り方に焦点を当て、めざすべき授業の姿を提案してきました。今年度はこれまでの提案内容を福島県における教員の「授業力の向上」に直接的につなげていくために、校内研修、すなわち授業研究の改善をめざした研究に取り組むことにしました。そこで、まず福島県の校内研修の実態をアンケートにより調査しました。その結果から見えてきた課題や改善のポイントを紹介します。

福島県の公立学校の校内授業研究の現状はどうなっていますか

アンケートの結果

調査対象： 県内の小・中学校、高等学校、特別支援学校
 回答者数： 研修主任等(786名) 教諭(3008名)
 調査時期： 平成26年6月～7月

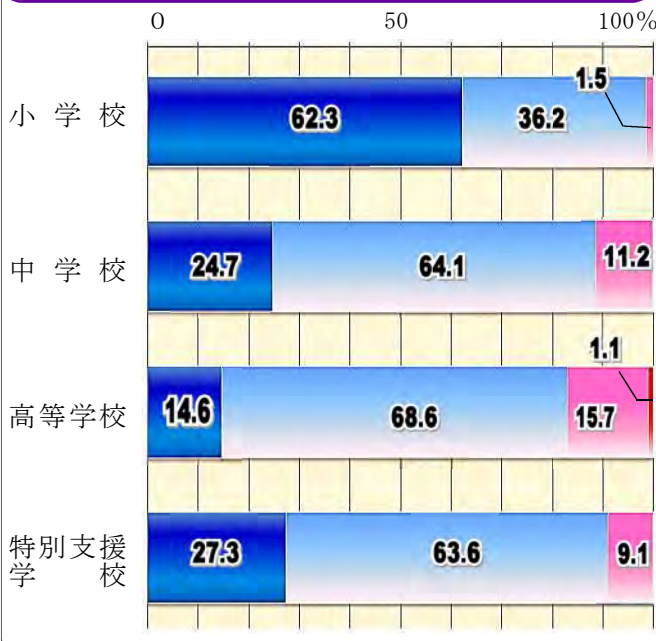
— アンケートの結果から主なものを掲載しました —

授業研究に対する意欲や課題意識について

■ とても思う ■ やや思う
 ■ あまり思わない ■ まったく思わない

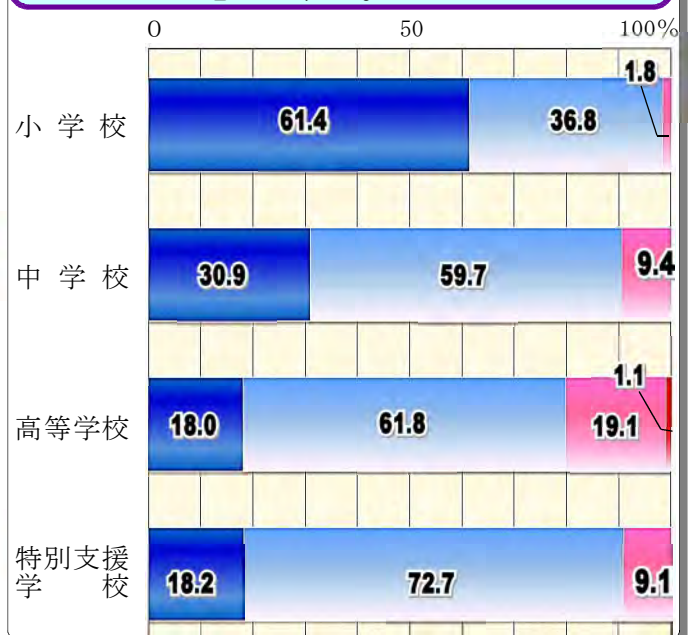
研修主任等

Q 1 あなたの学校の教員は、授業研究に意欲的に取り組んでいたと思いますか。



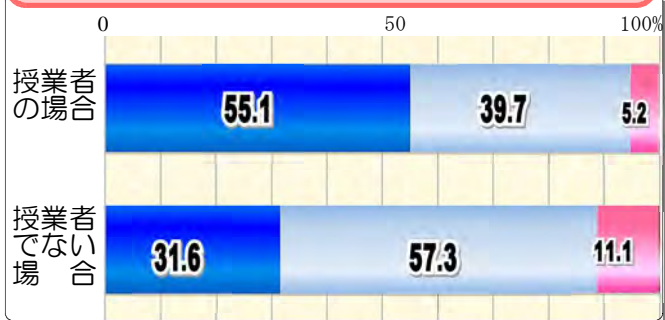
研修主任等

Q 2 あなたの学校の教員は、参加する授業研究に課題意識をもって取り組んでいたと思いますか。



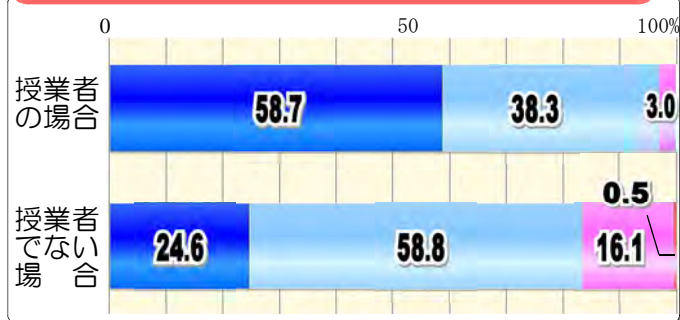
教諭

Q 3 あなたは、授業研究に意欲的に参加していたと思いますか。



教諭

Q 4 あなたは、課題をもって授業研究に取り組んでいたと思いますか。

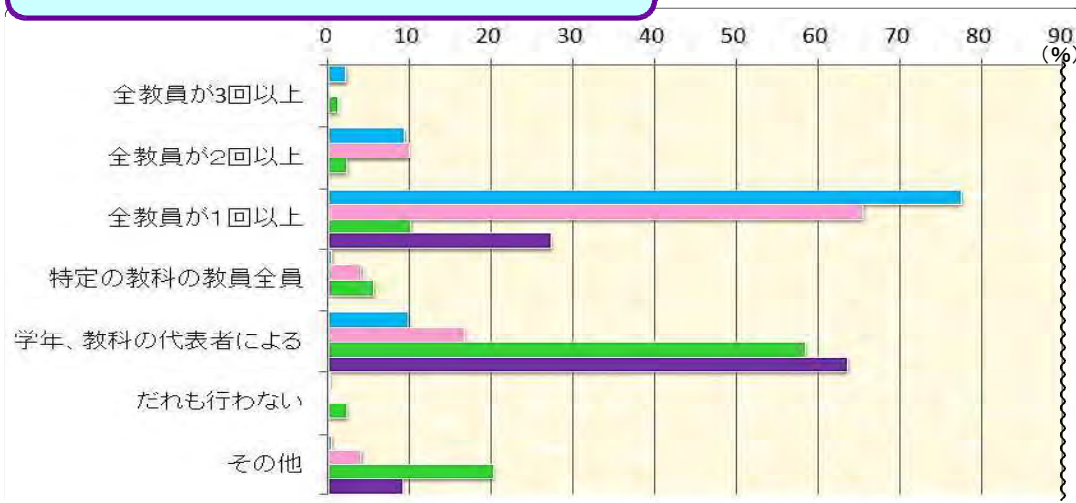


授業研究会の実際について



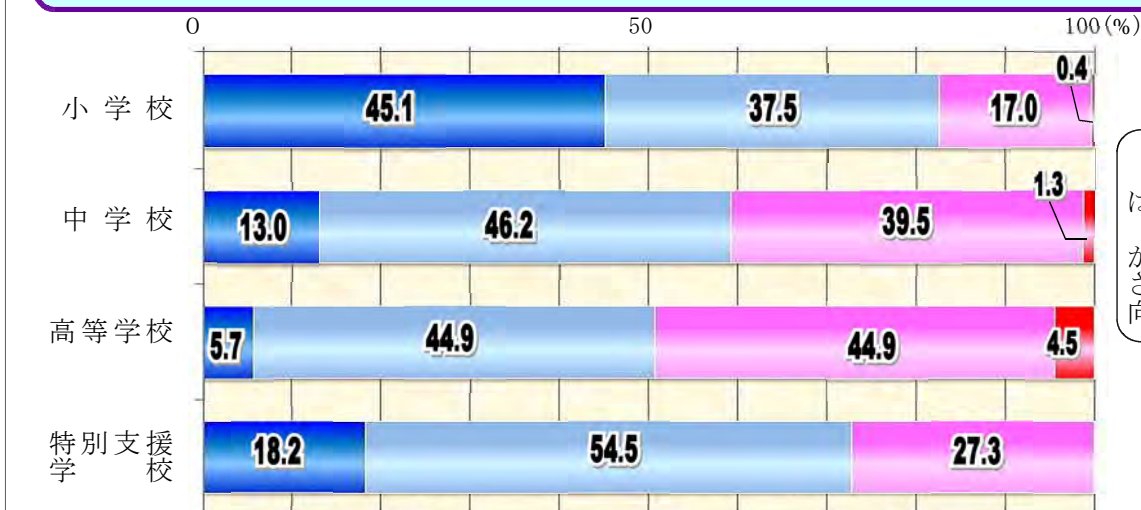
研修主任等

Q 5 あなたの学校では、研究授業をどのような方法で行っていましたか。



研修主任等

Q 6 あなたの学校では、研究授業の事前研究会を重視していたと思いますか。



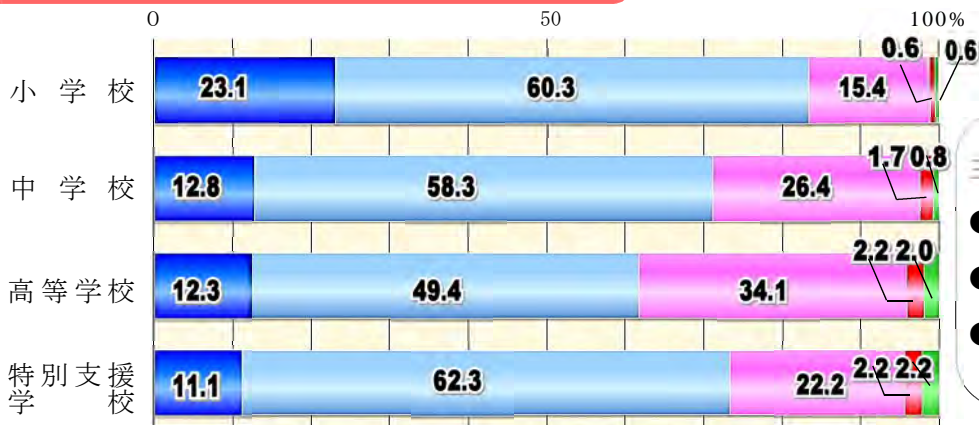
校種により差はありますが、「事前研究会」が必ずしも重視されていない傾向がみられます。



教諭

Q 7 あなたは、研究授業を積極的に行いたいと思いますか。

■とても思う ■やや思う ■あまり思わない ■まったく思わない ■その他



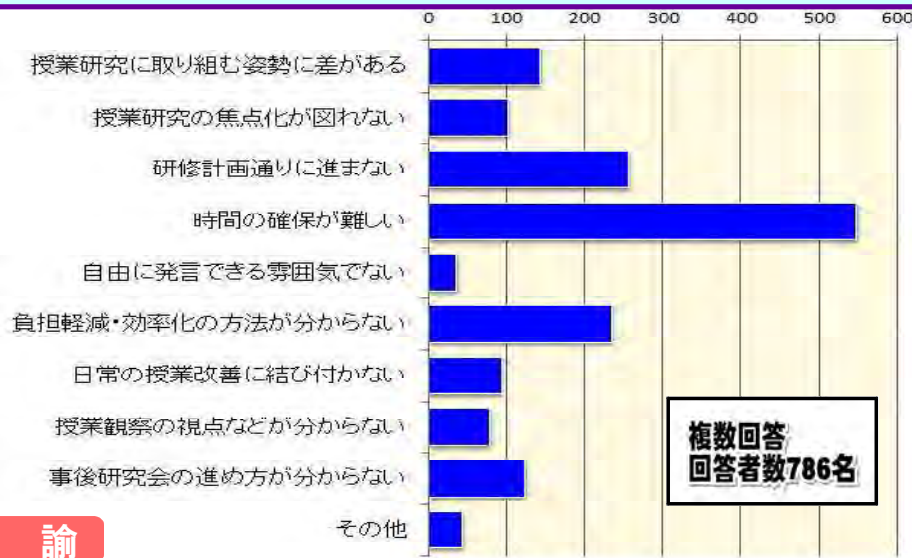
研究授業に消極的な主な理由としては……

- 「授業の準備をする時間がないから。」
- 「精神的な負担が大きすぎるから。」
- 「自分の授業力に自信がないから。」

授業研究における悩みについて

研修主任等

Q 8 授業研究を推進していく中で、どのようなことに困りましたか。



「時間の確保」が難しく、計画的に進まない状況にあること、そして、少ない時間の中で充実した取組にするために、負担軽減や効率化を図ろうと努力している現状がみられます。また、「全員の参加意欲が高まっているとは言えない」と感じている研修主任も多くいます。



教諭

Q 9 授業研究に取り組んでいる中で、どのようなことに困りましたか。

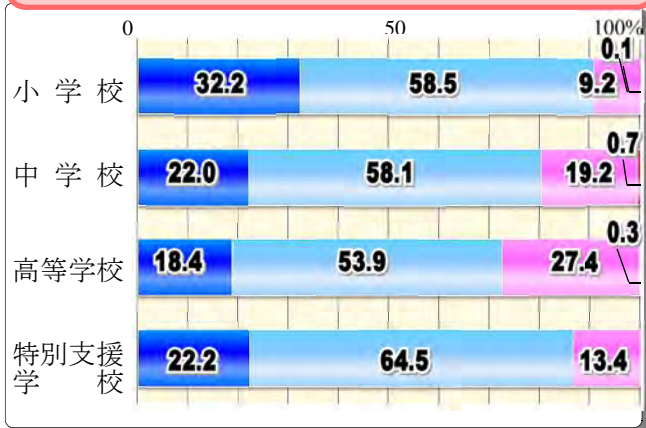


多くの教員が、授業に対する準備時間が不足していると感じているようです。一人一人の参加意欲やモチベーションに差がみられ、全員の共通理解のもと、組織的・協働的に取り組まれている状況もみられます。また、学校の研究が個人の授業改善に直接結び付かない現状があることも分かります。

授業力の向上と校内研修のかかわりについて

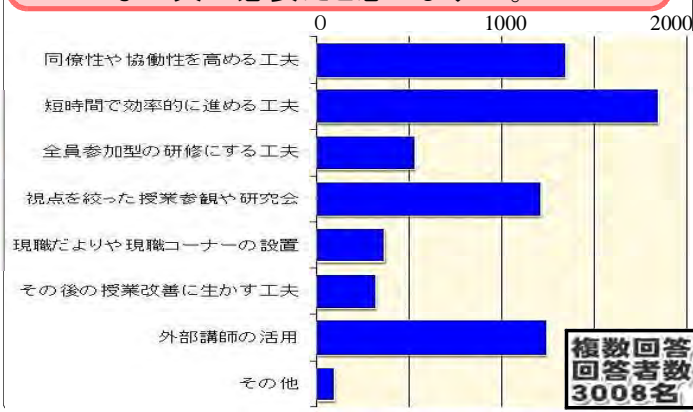
教諭

Q10 あなたは、校内研修を自分の授業力向上に役立っていたと思いますか。



教諭

Q11 あなたは、校内研修や授業研究を日々の授業力向上に結び付けるために、どんな工夫が必要だと思いますか。



授業研究を授業力の向上につなげるにはどうすればよいですか

授業研究の主体はあくまでも教員一人一人です。授業研究に意義を感じ、積極的に学ぼうとする姿勢や態度に支えられてこそ、授業研究が充実したものとなっていきます。しかし、学校現場を取り巻く様々な状況の中で、教員の資質・能力の向上を一人一人の責任に求めたとしても、個々の努力や頑張りには限界もあります。そこで、教員の協働性を生かしながら、校内授業研究の充実を図ることが、個々の教員の資質・能力を高めることにつながると考えます。「校内授業研究」における大切なポイントを提案します。

校内授業研究では、教員一人一人の授業力の向上という視点も大切です。



- ◆ 研究授業や授業研究会を通して、よりよい授業づくりへのヒントを得ることができます。
- ◆ 他の教員の授業を見ることで、自分の授業を子どもの目線で振り返ることができます。
- ◆ 他の教員に授業を見てもらうことで、新たな気づきを得ることができます。



授業研究会を共に学ぶ場とするために

- 事前に授業者の意図を理解し、共通の視点をもって参加すること。
→ 参観のポイントを共通理解する事前研究会の実施
- 授業研究会においては、授業の善し悪しに関する一般論を話し合うのではなく、授業の内側の事実から語ること。
→ 「子どもの具体的な姿」を中核とした話し合い
→ 具体的な改善策の明確化
- 研究会後は、見いだした課題や改善策を日々の授業や次の授業研究会に取り入れ、生かしていくこと。

事前に授業者の意図や工夫を共通理解することで、視点を絞った効率的な授業研究会に改善することができます。



授業研究会を日々の授業に生かすために

- 「日頃実施している授業」の現状把握を行うことにより、問題点や改善したいという思いを共有すること。
→ 『授業をつくる16の視点』の活用
- 授業者が「改善案」を作成したり、参観者が「自分の授業へ生かしたいこと」をまとめておくなど、授業研究会による学びを言語化・共有化しておくこと。

ふくしまの少人数教育 ～確かな学力をはぐくむ少人数指導の在り方～

福島県では、小学校1・2年、中学校1年を対象に「30人学級（少人数学級）」とし、小学校3～6年、中学校2・3年を対象に「30人程度学級」を導入しています。「30人程度学級」は、児童生徒33人で学級編制ができるようにしていますが、「少人数学級編制」を行うか、1学級の人数を40人までの範囲で配置された教員を習熟度別指導やT Tで活用する「少人数指導」を行うか、さらには各学校の実態を踏まえて両方を実施するかは、市町村教育委員会が選択できます。

現在、「少人数学級」だけを選択する割合が増える傾向が見られます。「少人数指導」だけを選択している学校はありません。また、生徒指導の成果に比べ、学力向上については、全国学力・学習状況調査の結果などから、成果が上がっているとは言えません。

学級編制が少人数になっても、教師の意識が変わらず授業改善や指導方法の工夫などが十分に行われていなければ、成果は上がりません。現在、福島県の「少人数学級」は真価が問われ、岐路に立たされています。

ここでは、少人数教育の課題を明らかにし、少人数指導のよさを生かした例を紹介します。

1 少人数教育の課題

☆児童生徒への対応が十分でない。

30人、30人程度学級に慣れてしまい、漫然と少人数学級で指導していないでしょうか。児童生徒と教師の心理的・物理的距離が狭まった分、一人一人の学びの特徴等を適切に把握し、個に応じた声かけや称賛、問題提示等が工夫されなければなりません。

☆指導方法の工夫がなされていない。

学級集団としての学び、習熟度別の学び、T Tなどを、児童生徒及び学習内容等に応じて柔軟に取り入れていかなければなりません。

☆少人数指導の意義が十分にとらえられていない。

少人数教育＝少人数学級ととらえられがちであり、少人数指導のメリットを十分に生かしていないケースも少なくありません。授業改善の視点から少人数指導に対する教員の意識改革を行い、個を生かすための教育方法として少人数指導を明確に位置付け、実践していくことが求められます。

少人数指導の見直しと実践

確かな学力の向上



2 少人数指導のメリット

- (1) 基礎・基本の徹底を図るため、学習の過程で個人差が生じやすい教科においてきめ細かな指導を行いやすくなります。
- (2) 児童生徒の興味・関心や学ぶ意欲に基づく主体的な学習を保障することができます。
- (3) 教師と児童生徒間、児童生徒同士のコミュニケーションを図ることが一層可能となります。
- (4) 一人一人の発言の機会が増えるとともに、多様な視点から学び合うことができます。
- (5) 学習集団を習熟度別に編成した場合、各集団内では理解や習熟の程度が比較的似通っているため、児童生徒の実態に応じた指導が容易になります。また、発展的な学習や補足的な学習を取り入れやすくなります。
- (6) 習熟度別指導とT Tを併用することにより、多人数であることに意義がある学習も生かされます。時には小さな集団に分けてそれぞれ一人の教師が受け持つなど、柔軟な学習集団の編成が可能になります。

3 習熟度別学習と課題別学習を取り入れた単元構想の例

～小学校算数第5学年「四角形と三角形の面積」～

単元後半における学習内容の定着と習熟を図る場面で、「30人程度学級」の三つの学級を習熟度別に編成した三つの集団で少人数指導を行い、さらに、台形やひし形の面積を求める場面で、課題別に編成した三つの集団で少人数指導を行った例を紹介します。

(1) 少人数指導の位置付け

① 通常の学級での指導

単元前半における平行四辺形や三角形の面積の求め方を考え、公式を導く場面では、通常の学級で行います。通常の学級で行うと、親和的な雰囲気の中で多様な変形の仕方が考え出され、互いの考えのよさに気付きながら、学び合いを通して面積を求める公式をつくり出すことができます。

② 習熟度別に編成した集団での指導

単元後半の第7時では、習熟度別に、じっくり（基礎）コース・すいすい（定着）コース・ぐんぐん（発展）コースに分けて行います。習熟の程度に応じて、学び直しの場や発展させる場を設け、理解を確実なものにし、面積を求める公式を確実に身に付けられるようにします。第5学年の算数の時間が、同じ曜日の同じ時間になるように設定しておきます。

③ 課題別に編成した集団での指導

第8時では、台形コース・ひし形コース・たこ形コースに分けて行います。いずれのコースを選択しても、面積を求めるには既習の平行四辺形や三角形の面積の求め方に帰着すればよいという数学的な考えをより高めることがねらいです。第9時には、第8時で選択しなかった台形またはひし形、たこ型の面積を求める学習を行い、さらに理解を深めます。

(2) 単元の指導計画・評価計画（抜粋）

時	ねらい	おもな評価規準（評価方法）
1	平行四辺形の面積の求め方を考え、説明することができる。	関：平行四辺形を長方形に変形すればよいことに気づき、平行四辺形の面積の求め方を考えようとしている。（学習活動の観察） 考：平行四辺形の面積の求め方を、長方形の面積の求め方を基に考え、筋道を立てて説明している。（ノート記述の分析）
通常の三つの学級		
第2時～第5時（略）		
6	高さが三角形の外にある場合でも、平行四辺形の面積の公式を適用できることを理解する。	考：高さを表す垂線の足が三角形の外にある場合でも、～（略） 今までの学習の達成度を小テストにより評価し、習熟度に応じたコースに分ける。 コースガイダンスを行う。
7	学習内容の理解を深め、習熟する。 <i>公式は分かったけど不安だ</i>	関：選択したコースで、様々な問題にチャレンジしている。（学習活動の観察） 知・技・考：学習内容の理解や考えに十分な伸びが見られる。（練習問題記述の分析） 習熟度別に編成した三つの集団 基礎・定着・発展グループを設定する。習熟度に応じた教材を準備する。 コースガイダンスを行う。 <i>公式をどんどん使ってみたいな</i> <i>もう完璧だ</i>
8 9	平行四辺形、三角形の面積の求め方を基に、台形やひし形、たこ形の面積を求めることができる。 <i>台形では公式を作れないかな</i>	関：選択したコースで、様々な図形の面積の求め方にチャレンジしている。（観察） 知・技・考：学習内容の理解や考えに十分な伸びが見られる。（練習問題記述の分析） 課題別に編成した三つの集団 台形・ひし形・たこ形コースを設定する。 考：平行四辺形や三角形の面積の求め方を基に考え、台形やひし形の面積を求める公式を導くことができる。（ノートによる練習問題の解決状況の分析） 技：公式を用いて台形、ひし形の面積を求めることができる。（練習問題記述の分析） <i>他の図形はどうなるのかな</i>
第10時～第12時（略）		
通常の三つの学級		
第10時で、「高さとの面積の関係」について学習し、第11・12時で、仕上げの問題や定着確認シートの問題を行います。		

今回は、単元の中で取り入れる少人数指導の一例を紹介しました。習熟度別学習を2時間扱いにしたり、課題別学習だけを取り入れたりと、学校の実態に応じて工夫を凝らし、できる教科で、できる単元で少人数指導を実践していきましょう。

平成 26 年度福島県教育研究発表会 ～明日の福島の教育をつくる～

教育センターでは、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの研究の成果をもとに、意見交換や交流を通して本県学校教育の向上に資することをねらいとして教育研究発表会を実施しています。今年度は、学習指導、教科指導、教育相談、情報教育等について、6会場18の研究・実践発表と講演会を予定しています。

講演会は、東京都府中市教育委員会教育部副参事兼指導室長三田村 裕氏による『学校におけるOJTの実践』を行います。県内各教育機関をはじめ、教育に関心のある多くの方々の参加を心よりお待ちしております。詳しくは、福島県教育研究発表会2次案内、教育センターWebサイトをご覧ください。



- 期 日 平成26年11月27日(木) 9:50～16:10
- 会 場 福島県教育センター(福島市瀬上字五月田16)
- 参加申込 教育センターWebサイトから申込用紙をダウンロードして、11月13日(木)までにE-mailで申し込んでください。

多数の御参加
をお待ちして
おります。



市町村教育ポータルサイト導入サポート実施中

多忙化解消のひとつとして、学校Webページの運用を簡単にするため、NetCommonsによる市町村教育ポータルサイト構築の導入支援を行っています。支援内容は、学校Webページ作成と利用方法の説明です。FKS接続の全市町村分作成予定です。

FKSテレビ会議システム

FKSテレビ会議アカウント貸出サイトでアカウントを予約して利用できるようになりました。

<http://www.web-meeting.gr.fks.ed.jp/>



ふくしま教育総合ネットワーク
FKS チーム info@fks.ed.jp